

第3学年 保健体育科学習指導案

日 時 令和7年1月29日（6校時）

対 象 青垣中学校3年生41名

指導者 第3学年 保健体育科

1 単元名 健康な生活と病気の予防

2 単元の目標

- (1) 感染症は、病原体が主な要因となって発生すること、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できることを理解できるようにする。また健康の保持増進や疾病の予防のためには、個人や社会の取組が重要であり、保健・医療機関を有効に利用すること、医薬品は正しく使用することを理解できるようにする。 (知識及び技能)
- (2) 健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。 (思考力・判断力・表現力等)
- (3) 健康の保持増進や、回復についての学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。 (学びに向かう力、人間性等)

3 指導にあたって

本単元であつかう健康な生活と病気の予防においては、感染症の原因と予防、性感染症の原因と予防、個人の健康を守る社会の取組や医薬品の有効利用と大きく3つに分けられる。中でも性感染症については現在、若者の間で感染者が急増し、社会問題になるなど中学生にとっては身近で大切な課題であるため、興味をもって取り組める内容である。また学習を深める中で、性的接触や感染者に対する差別や偏見について考える機会がある。そのため、自分事として捉えるだけでなく、今までの保健体育の学習はもちろん、それ以外の学習ともつなげながら捉え、自分を含む周りも安心・安全に暮らしていく社会にしていけるためにはどうしたらよいかを考える良い機会になる学習でもある。

本学年の生徒は物事を素直に受け止め、何事にも意欲的に挑戦しようとする心が育っている。特に文化祭の演劇では、役になり切って表現することや裏方で支えることが好きな生徒が多く、演劇が自分たちの得意分野の1つとして誇らしく捉えている生徒もいる。また今までの保健分野の授業においては、課題に対して個人やグループで積極的に追求し、全体で考えを出し合いながら課題を解決する姿が目立ってきた。さらに学んだ内容を自身の生活へとつなげ、より良い生活へと変容させようとする生徒も増えてきた。一方で性教育に関しては、性教育講演会などで学ぶ機会があった。しかし、思春期特有の恥かしさや性教育は“隠れて学ぶもの”“先輩やネットから学ぶもの”といった固定観念から、学びに対する積極性の低下や、性感染症などについては身近な問題であるにも関わらず、自分事として捉えることが難しい現状がある。

そこで指導においては、健康な生活の実現のためにも、あえて苦手意識が高い性教育を中心に据えて授業を展開していきたい。そこで、まず単元の導入である感染症から身体を守る体内の仕組みなどでは、一見イメージしにくい内容であるため、体内の細胞を擬人化し、生徒たちが得意な劇風にアレンジして伝える。そのことにより内容をイメージしやすくするだけでなく、苦手意識が強い性教育でも積極的に参加しやすいようにしたい。また高校生活で、一般的に経験しそうな性に関する場面をみんなで出し合い、どのような言動をとるべきかを考えさせる。その際にはロールプレイを取り入れることで明るく楽しい雰囲気を作り出すとともに、学んだ知識や頭ではわかっていることを行動へと変容させることがいかに難しいかも実感させたい。さらに単元を進める過程で、エイズに対してはその差別や偏見について、個人の健康を守る社会の取組では、薬害についても触れていく。その際には、保健体育だけでなく、今まで学んだ人権教育の学びとつなげたり、今後の生活に活かしたりするきっかけにしたい。この様に、本単元の学びを通し、今後の健康な生活の実現はもちろん、性教育は恥ずかしいという捉え方を、性教育は自分の心が生きる、また自分やその周りを生き生きと輝かせる学びであるという認識をもたせ、生涯に生きて働く学びにしたい。

4 指導計画と単元の評価規準

| | 時 | 1 | 2 | 3 | 4 (本時) | 5 | 6 | 7 |
|--------|---------|---|---------|-------------------------------|--------------------------|----------------|------------|------------------|
| 学習の流れ | 0 10 | ○挨拶、出欠確認、前時の復習、本時のめあてや学習内容の確認 | | | | | | |
| | 45 | ○感染症の原因 | ○感染症の予防 | ○性感染症の原因 ○性感染症の予防 単元テスト | ○エイズの予防 ○エイズに対する差別と偏見 | ○個人の健康を守る社会の取組 | ○医薬品の有効利用 | ○単元のまとめ 単元テスト |
| | | ○本時のふり返り・次時の確認 | | | | | | |
| 評価機会 | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 総括的な評価 |
| | 知識 | ① | ② | | ③ | ④ | ⑤ | |
| | 思判表 | | | ① | ② | | | |
| | 態度 | | | ① | | | | |
| | 評価方法 | 観察 記述内容 | 記述内容 | 発言内容 単元テスト | 発言内容 記述内容 | 発言内容 | 観察 記述内容 | |
| 単元評価規準 | 知識 | <p>①感染症は、病原体が環境を通じて主体へ感染することで起きる疾病であり、適切な対策を講ずることにより感染のリスクを軽減できることや、病原体には、細菌やウイルスがあるが、温度、湿度などの自然環境、住居、人口密度、交通などの社会環境、また主体の抵抗力や栄養状態などの条件が相互に関係する中で、病原体が身体に侵入し、感染症が発病することを理解している。</p> <p>②感染を予防するには、消毒や殺菌等により発生源をなくすこと、周囲の環境を衛生的に保つことにより感染経路を遮断すること、栄養状態を良好にしたり、予防接種の実施により免疫を付けたりするなど身体の抵抗力を高めることが有効であることを理解している。</p> <p>③エイズ及び性感染症の増加傾向と青少年の感染が社会問題になっていることから、それらの疾病概念や感染経路、感染のリスクを軽減する効果的な予防方法身に付ける必要があることを理解している。</p> <p>④健康の保持増進や疾病の予防には、健康な生活行動など、個人が行う取組とともに、社会の取組が有効であることや、社会の取組としては、地域には保健所、保健センターなどがあり、個人の取組として各機関がもつ機能を有効に利用する必要があることを理解している。</p> <p>⑤心身の状態が不調である場合は、できるだけ早く医療機関で受診することや、医薬品には、主作用と副作用があり、使用回数や時間、使用量などの使用方法を正しく理解している。</p> | | | | | | |
| | 思考判断表現 | <p>①感染症の予防や健康の保持増進を守る社会の取組について、習得した知識を自他の生活に適用したり、応用したりして、疾病にかかるリスクを軽減し健康を保持増進する方法を選択しようとしている。</p> <p>②健康な生活と疾病の予防について、課題の解決方法とそれを選択した理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合おうとしている。</p> | | | | | | |
| | 態度 | ①健康の保持増進や、回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。 | | | | | | |

5 本時の展開（4時間目／7時間中）

（1）本時の目標

- ・エイズの疾病概念や感染経路、感染リスクを軽減する効果的な予防方法を身に付ける必要があることを理解することができる。
- ・健康な生活と疾病の予防について、課題の解決方法やその理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合うことができる。

（2）学習過程

| 時間 | 学習内容及び学習活動 | 指導上の留意点 | 評価（評価方法） |
|--|---|--|--|
| 導入 | 1. めあての確認および復習 <ul style="list-style-type: none"> ・前時までの復習 ・前時の感想共有 | <ul style="list-style-type: none"> ○感染と発病の違いや病原体が体内に侵入してきたときの体内の働きをふり返る。 ○性感染症の特徴をおさえる。 | |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> エイズについて感染原因と予防方法をはっきりさせよう </div> | | | |
| 展開 | 2. エイズについて理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・当時の人になりきり、エイズ報道を聞いた際の気持ちを発表する。 ・エイズに対する差別や偏見や生まれた要因に触れる。 ・エイズに対する正しい知識を習得する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【エイズの正しい知識】 <ul style="list-style-type: none"> ・エイズと HIV の違い ・精液、膣分泌液、血液に含まれる ・3つの感染経路（血液、母子感染、性交渉） ・熱や消毒に弱い、水中や乾燥した場所では繁殖しない ・特効薬はない ・予防方法（性的接触、血液） </div> <ul style="list-style-type: none"> ・習得した知識を活用する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・エイズパニックが起こった 1980 年代の人になりきり、エイズに対する当時の新聞記事や報道、口コミ等の情報を聞き、どのように感じたか共有させる。 ・主に恐怖や不安が、知らないうちに差別や偏見を生み出し、助長させていることに気づかせる。考えにくい場合はコロナ禍の頃を想起させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【差別や偏見の例】 <ul style="list-style-type: none"> ・病院が診察を拒否 ・温泉や入浴を拒否 ・学校への登校をさせない ・感染者探し など </div> <ul style="list-style-type: none"> ・HIV と他の細菌やウイルスの違いについて理解させる。その際、体内の白血球に着目させ、その働きを劇風にすることでよりイメージしやすくする。 ・エイズという特定の病があるわけではなく、HIV に感染し、免疫機能の低下によって様々な病気にかかりやすくなった結果、死に至る総称をエイズということを理解させる。 ・エイズは3つの感染経路があるが、感染割合が圧倒的に多いのは性交渉であるため、他の性感染症と同様に防ぐことができることや予防方法に気付かせる。 ・予防方法がわかりにくい生徒にはエイズは性感染症の一部であることを伝え、前時の学びを想起させる。 ・HIV 自体は熱や消毒に弱く、水中や乾燥した場所では繁殖できない弱いウイルスであることをおさえる。 ・学びを実際の生活に生かすため、日常生活での行動がエイズに感染するかどうかを根拠も含め、考えさせる。 ・恐怖や不安が和らいだのは、エイズに対する正しい知識を追求し、習得したからであり、それが感染者と共に安心して生活できる礎になることに気付かせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・エイズの疾病概念や感染経路、感染リスクを軽減する効果的な予防方法を身に付ける必要があることを理解している。 （発言・記述） 【知識】 |
| | 3. 学びを活かし、エイズに対する自身の考えをまとめ、伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・エイズに対して偏見や差別をもっている人たちへ ・エイズ患者との接し方 ・エイズに感染しないために | <ul style="list-style-type: none"> ・表面上の主張ではなく、本時や本時までの学びが根拠になる意見を大いに認める。 ・保健体育以外の学びとつなげて考えている意見があれば全体でも評価し、自尊感情を高めさせたい。 ・いくら思いをもっているのかもしれない時に声を上げないと社会は変わらないことを伝える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活と疾病の予防について、課題の解決方法やその理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合っている。 （発言・記述） 【思・判・表】 |

| | | | |
|-----|--------------------|---|--|
| まとめ | 4. ふり返り ・本時のまとめ | ○次時の取り組みにつながる本時のふり返りを行う。 ○学びを広げるきっかけとして、ハンセン病との共通点や血友病患者についてふれる。 | |
|-----|--------------------|---|--|